

※発言をそのまま書き起こしたデータを基に、個人情報に関する部分を削除し、文意が通るように修正を行っています。

**【グループワーク 1】 B班**

テーマ：もう一度考えよう・・・「原子カムラ」はあるのか、ないのか、何なのか？

「原子カムラ」というものをどうしたらよいか？

(F) よろしくお願ひします。

では、まず3分くらいで、改めて、『「原子カムラ」はあるのか、ないのか、何なのか？』というようなことについて、たぶん今までの総復習を頭に思い巡らせながらだと思っただけで、バシバシ書いていってください。お願ひします。

(サブ F) 「どうしたらよいか？」はその次にやりますか？

(F) ああ、そうか。どうしましょうか？ 皆さんで自由に、もう思いついたほうから書いてください。

(サブ F) では、3分を測りますね。

(F) お願ひします。

(記入中)

(F) いかがでしょうか、皆さん。では、そちらの方は完成しているようなので、いいですか、言っただいて。

—— ええと、「原子カムラ」があるのか、ないのかというのは、結局、[定義・認識はあいまい] だと思います。その定義・認識によって、あったり、なかったりするんじゃないかと。

なので、[「ムラ」はイメージのようなもの] になっているんじゃないかと思いました。

あえていうなら、[原子力業界の従事者] がムラにあたるのかなと思いました。以上です。

(F) ありがとうございます。では、次の方、お願ひします。

—— 「原子カムラ」はやはり [ある] と思います。

「何なのか？」というところだと、[専門家の集まり] だと考えていまして、[企業、大

学、学者] がそれにあたるのかなと思っています。

あと、「どうしたらよいか？」も少し書いたんですけども、私は、[そのままでもいい] と思いますね。ただ、情報公開や信頼を得るための活動をもっとしっかりやるべきかなと思います。逆に言うと、それをするんだったら、そのままでもいいと。しないんだったら、ちょっと考えないのかなと。そういうふうに思いました。

(F) ありがとうございます。では、次の方、お願いします。

— はい。[ムラは存在する] と思います。

これは続くんですけど、[ムラは群れ] であると。同じく続きですけども、[群れることで仲間意識を高める]。[ある意味弱者の集団。原子力は嫌われている]。

(F) はい。では、どうですか。

— はい。私も、やはり [原子カムラは存在する] かなと思います。

「何なのか？」のところは結局書けなかったんですけども、まあ、業界団体とか、そういうことでいいかなと思います。

「どうしたらよいか？」のところなのですが、それはやはり、外との交流を地道に行なっていくべきじゃないかなと思っています。

で、原子カムラそのものについてなのですけど、[利益団体が結束するのは当たり前] の話なのかなと。そこ (ムラの中の人) だけが考えているというのが問題で、[原子力をチェックする集団の影響力不足] がいろいろ問題だと思います。

あと、その背景としては、関心を持たない市民の責任も問われるべきと。

(F) 結構「どうしたらよいか？」に入る感じですね。

— こっちになるのかな。どうなんだろう。

(F) とりあえず、少しこちら寄りです。(貼る位置)

— はい。

対照的なのがドイツで、市民が脱原発を目指して試行錯誤する選択をしたというのがあるので。まあ、この付箋は、この辺りに、こう、またがる感じで。

(F) そんな感じですよ。はい、分かりました。

では、次の方、お願いします。

—— はい。まず、だいたい〔不明確な定義〕なので、あるとかないとかを話すのはあまり意味がない。結局、第1回と第5回の差がない。ということは、このフォーラムは何の意味があったのかよく分からない。

村イコールムラであり、イコール専門家であれば、存在するでしょう、ということしか言えないのかなということです。

では、「どうしたらよいか？」というと、私はものすごく異端的なんだけど、ひとつは、〔理解できないことは任せるしかない〕。全部自分で理解しようなんて思わないほうがいいということです。

それから、個人の考えや意見が重いというのは幻想であると。言いたいことを言って、その意見を大切に、というのは間違いだと。それだけでは答えにならないだろうということ。

そうなったときにどうするか。ひとつは、個人は多面性を持っていますよね。夫であるとか、父親であるとか、そういう多面性。専門家も同じような多面性を持っている。では、それはどこで接点を増やすか、ということを考えるといいかなということがあります。

もうひとつは、ムラというイメージの中に反倫理的な雰囲気を感じているのであれば、専門家としての技術者倫理みたいなものを、今後、例えば大学とかで教えるべきだと。誰が教えるんだとなると、企業が教えては駄目なのですね。東京電力が、「君たちの倫理観は」といったって駄目なので、中立たる原子力学会辺りが倫理教育をやっていくんだ、ということを持ち上げるべきだと私は思っていますけどね。そうしないと、具体論が出ないと思うんですよ。

(F) はい、ありがとうございました。

私も、実はこちらの方と同じで、5回目をやる意味は何なんだろうとちょっと思ったんです。たぶん、第1回とあまり変わってなくて、私も、ムラは存在するだろうと。しかも、厳然と。

結局、この20人では理解は深まったと思うんだけど、それ以外の人々の中では、例えばこういうようなはたらきかけをしない限り、たぶん今と変わることはなくて。そうすると、やはり、これからも変わらずに存在するだろうと。

私も第1回から全然変わってなくて。業界の人々、プラス知識者で、実は規制側の人も入っていたりするのかなとか。あとは、マスメディアの人とかマスコミという意見が前にあったのを聞いて、そうだろうなという気がしました。

ここに集まった人たちは、そういう機会があつて、すごく考えてくれた。少なくとも、2週間、ここに来るまでの間に、例えば寝起きしている間に、誰か必ず考えてここに臨んできたということは、常に考えていたということなので、やはり、何かしらそういうことをする機会があれば、それこそ、その上で反対してもいいだろうし、なんだろう… (タイム

一が鳴った) ああ、ごめんなさい、そういう感じです。うまく言えません。

—— 非常によく分かります。

(F) 追加したい方とか、あと、いろいろ出てきたので、ご意見がある方は、どうぞ、お願いします。

全然グルーピングしていないので。

(サブ F) グルーピングはその後でいいので。追加があったら。いかがですか？

—— やはり、「どうしたらよいか？」のほうが、具体的でいいですね。

—— そうですね。

—— ここ（あるのか、ないのか）をいくらやっても、結局あまり深みはでないと思うんですよね。

—— まあ、同じ繰り返しになる可能性が高いですね。

—— ただ、「原子カムラ」というものは何なのかが分からないと、「どうしたらよいか？」はできないと思うんですけど。

—— まあ、それは自分の概念でいいんじゃないですか。

—— 自分の概念で話せばいいということですか？

—— ええ。

(F) でも、それはありましたよね。第1回でワッとやって、実は分かんないんじゃないのって。

—— 単に専門家の集まりという話であれば、別に解体する必要はない。このままでいいということになる。

でも、利益集団ということであれば、ちょっとどうしたらいいのかなって思いますけど。

—— 利益集団は、悪いのかな？

—— いや、私は悪いとは思わないんですけど。

—— そういう良し悪しの問題では、たぶんないですよ。

—— 独占禁止法その他のことをイメージしているのか。それとも、例えば文科省から天下ってきた人が東電に山のようにいて、本当はものすごい給料を取っているだろうということなのか。

—— 例えば、原発が存在することによって、事業が成り立ったり、自分の存在意義が明確になる人たちを利益団体と定義をしてしまえば、ある程度分かるのかなという気はします。

—— そうですね。となると、それは製鉄でも自動車でも同じことだから、

—— そういうことですよね。

—— 原子力が他の産業と比べて、どこが違っているのかがよく分からない。

—— そうですよ。

—— だから、「結束するのは当たり前」っていうことになりますよね。

—— そういうことですよね。

—— 軍事的側面もありますよね。

—— ああ、軍事的側面は、今のところ、

—— 今のところ出ていないですけど、仮想敵対国に対して、これから原潜とか、原子力空母を考えていくとなると、それに対する準備が必要なわけで。

—— それは、これとはあまり結びつかないような気がしますよね。

—— うん、そうですね。

—— この間かな。

定義を我々のほうに作らせようとしているのか、「ない」ということを結論付けようとしているのか、よく分からない。

(サブ F)    どちらでもいいんじゃないですか？

—— いや、必ずあるはずなんですよ。こういうフォーラムは。

—— 裏読みですね (笑)。

—— それが分からないと、結論として、「ない」ということを求めているような気がするわけです。だって、論議がフォーカスされていかないでしょう。あいまいで。

—— 私は、この「原子カムラ」という言葉から受けるイメージは、確かにその範囲を考えていくと分かりにくいんですけど、漠としたイメージをあえてそのまま言葉にすると、専門家とかその周辺にいらっしゃる人、まあ、発電であえて言うと、それを存続したいと思っている人たちが、内輪で物事を決めて、その人たちの意見でずっと進んでいく。だから、

—— ああ、それは正しいですね。

—— うん、だから、この辺りと絡むんだろうと思うんですけど。

で、それについて、そのままでいいのか、変えるべきなのか、という話なのかなと。

—— その定義は非常にいいですね。

—— と、私は理解しています。だから、構成しているアクターが誰なのかというのを特定する作業はあまり意味がない。逆に、今くらいにアバウトなほうが。

—— そうですね。

—— 例えば、原子力発電を推進した最初って、正力さんがかなり絡んでいたそうですね。

—— そうです。

—— 正力さんが絡んでいるとなると、先ほどの軍事的な側面というのも、野心的にはそ

ういうものも当初はあったのかなと思えますよね。

—— あったでしょうね。アメリカが持たせなかっただけかも。それは分からない。外交文書はオープンにならないから。

—— まあ、常任理事国にならないと持てないので。

—— まあ、そこは完全に推測の世界になっちゃいますけど。

—— 今のはいいんじゃないですか。それを言葉にして書いてみてくださいよ。

—— 難しいですね。なんて書いたらいいかな。

—— 始まる前におっしゃっていましたが、やはり会社に入ると儲かればいいみたいな考え方が、

—— それは利益を追求しますよね。

—— そうですね。その過程で事故が起きちゃった気がするので、

—— ああ、それはありますね。

—— やはり、これじゃないですか。倫理観とか、教育が必要じゃないかなと思います。

—— 問題は、原子力学会員が倫理違反をしても、原子力学会を除名されないことですよ。企業も。そういう強制力を持たせるのが必要と私は言っているんだけど。

—— どうなのですか。倫理観もすごい大事だと思うんですけど、倫理観だけだと、やはり組織の理屈に押し流されてしまうところもあると思っていて。やはり第三者によるチェックとか、そういう仕組み。ちょっとアメリカチックなのですけど。

(F) 教育とか倫理だと、やはり個人に負うところが多い感じがしますね。

—— それをたどっていくと、太平洋戦争はなぜ止められなかったのかというのは、皆が戦争やりたかったのかといたらそうではなくて、いやいやながらも、でも、仕組みがそうになっていたからみたいなので。

—— これがあるんですよ。日本の優秀な学者が（海外に）流れるのは、労働市場が流動化しないから。

（サブ F） すみません。組織の何に流されてとおっしゃいましたか？

—— うーんと、組織の論理に。

（サブ F） グルーピングしてみると、もう少し話の焦点が絞れるかもしれないですよ。この後の作業なのですが、ちょっと先に行ってみましょうか？

—— どうぞ。行ってみましょう。

（サブ F） まず、『あるのか、ないのか、何なのか？』。では、「ある」を上にとまとめちゃっていいですか？

（F） 本当は、「ある」じゃなくて、「何なのか」が先で、その後に、

—— その後に、あるのか、ないのか、なのでしょうね。

（F） と思うんですけど。

（サブ F） では、「ある」は下に持っていきませんか？

（F） まず、定義があいまいということ。だけど、どうやらぼんやりと、働いている人たちとか、あとは利益団体だろうかという意見がある。

そういったことに対しては、それは利益団体のひとつなので、産業のひとつなので、あるんだろう、ということなのかなと思いました。私が思っても仕方がないんですけど、ということじゃないかなと。

次に、こちら側にだんだん移っていく感じなのですが、それを「どうしたらよいか？」ということですが、ちらほらと聞こえてきたのは、そのままでもいいということ。ただし、条件として、例えば市民にもっと関心を持ってもらうこと。あとは、情報公開や信頼という話とか。あとは、携わっている人の倫理観とか、教育で育てるというようなこと。あと、[組織の論理に流される]、うーん、もっと良いことを言っていたような気が…。

—— 文章力がなくて（笑）。

(F) で、あとは、労働市場の流動化？

—— これは、専門家として、会社と個人とのコンフリクトというか、接点を失ったときに、どちらを優先するかという問題になったときに、労働市場が流動化すれば、自分を主張できるんですよ。労働市場が流動化しないと、組織に従属していくことになる。

—— まあ、そうですね。

—— 日本は流動化しないから、辞めたら他の場所に行けないという恐怖感から、どうしても従属化せざるを得ない面が出てくる。

(F) 今の状態だと、会社のほうに紐づけされてしまうというか、従属してしまう可能性がある。

—— そうですね。そうすると、どちらを優先するかという問題になるんですよ。それを解決しないと、この倫理が「お話」になっちゃうので。きれいなお話、でも、実際には使えないお話。グリム童話みたいな。

(F) 流動化といわないまでも、もっと個人で、何だろう、それこそ会社を押しえられるというか、

—— でも、流動性を活かすためには、受け入れるところもその流動した人材を、

—— 欲しがらないといけないでしょう。

—— ちゃんと保障していかないといけないんですよね。

—— そのためには、流動化するためには、原子力産業のすそ野を広げていくしかないんですよ。そうしたら、他の産業でも使えるようになるんですよ。だから、発電なんてごく一部の仕事なんですよ、ということですよ。技術の発展。

(F) 技術自体は幅広いんですけどね。

—— そうですね。

だから、安全性を求めていったら、どんなものが必要か、ということになりますよね。

そういう技術を日本でもっと作っていかないといけない。原子力だ、どうだというよりも、もっと広い視野で。

皆が恐れているのは、原子力をやめたら、そういう周辺の技術もなくなってしまうというのを恐れている面もあるのですよね。

—— その人自体も受け入れてもらえるかどうか、そういう問題はありますよね。

—— ええ、それは分からない。これは難しいですよ。

(F) 専門性じゃなくて、もっと多角化せよ、という感じですか？

—— そう。専門性 100 の専門家より、50 の専門家のほうが。

—— あと、これに付随する話で、前に調べた中で、福島第一原発について、確率論的ななんとかという手法で、実は津波のリスクが非常に高いというのを、東電の方がまとめたんですよ。

けれども、それが意思決定に反映されなかった。まあ、確率的な考え方で弾いたものが倫理観と一致するのかわからないんですけども、そういう分析があったにも関わらず、意思決定に反映されなかったというところに、やはり倫理観の限界を感じるころがあつて。

—— ありますね。

—— そうですね。

—— しかも、2006年でしょう。

(F) 中越沖地震とか、すごいタイミングが悪いんですよ。

—— タイミングは悪いですよ。だから、その地区で、例えば神戸で地震が起こるとは誰も思わないじゃないですか。

(F) 中越沖地震で、柏崎とか、

—— 火事になったりとか、ありましたよね。

(F) (火事が) あって、言っちゃ悪いけどしょうもないところを增強させて、大事なところに結局お金が回らなかったというのもありましたね。今、実際にお金がなくて、耐震対策が遅れているとか。遅れてはいないんですけど、やはり、まずこれからやらないとお金がないっていう。

—— そうなってくると、例えば 10 条通報をやることに無理があるのか、という話になりますよね。

—— ええ、結局そういうシステムの根本の部分の話になってくるんですよ。

例えば、柏崎の再稼働の話は、東電の立場からしたら、やらないとつぶれかねない話だから。

—— 元々あそこはつぶれているから、つぶせばいいんですよ。

—— 国営化するとか。

—— なんか、そういうシステム全体を変えなきゃ、いろいろ難しい部分が今出てきている気がして。

—— そうですね。

—— またあれですよ。1 回とめてしまうと、動かすときに莫大なお金がかかる。そういう面もあるんですよ。

(F) 1 回なくしてしまうと、本当に技術者がいなくなってしまうのですよね。

—— そうなのですよ。

—— しかも、技術が相当出ていつている。

(F) 流動化はしているのかもしれませんが (笑)。

—— 国際流動化ね。

(F) 片道で行ってしまうかもしれない。

—— そんなことはないと思いますよ。10年後にはインドから来るかも。日本人がそれを  
使いこなせるかは別としてね。そのときのほうが、もっと、どうやってそれをコントロー  
ルしていくのか、倫理観を持たせていくのか、大変でしょうね。

—— 1つ原発を作った時点で、ずっとやり続けないと、なくすのにもまた技術者が必要に  
なってくるということだと、

—— なくすと、単なるコストでしかなくなっちゃうんですよね。

—— そうですよ。また、現代の技術で基礎を作っていけると、

(タイマーが鳴った)

—— あ、もう時間ですか？

(サブ F) 今ので、真ん中の15分は終わりです。

次は、最後の15分です。グルーピングをして、タイトルをつけて、そして優先順位をつ  
けていくところになります。

—— やばいな。ちょっと雑談に走ってしまった。

—— これは腕の見せどころですよ。

(F) 私、ファシリテーターを、前回は抜かして全部やっているの、誰か他の方がやっ  
たほうが(笑)。

—— 引きがいいですね。

(F) 遅く来ると残っていて。

—— でも、見ていないですから。一応こうやって取っているから。

(F) ああ、そうなのですか。だって、もう選択肢がないですから。ああ、皆四角い(フ  
ァシリテーターのマークがついている)などと思って。

(サブ F) とりあえず、こちら側は、3つくらいにグルーピングして、タイトルをつけら

れそうですね。

(F) この辺りですか。たぶん、ここが皆さんが言いたいことなのですよね。

—— 倫理観でひとつまとめられそうですね。

—— そうですね。

(サブ F) 倫理観と、民間企業と、あとは技術というのがありましたよね。

—— 労働市場の流動化はまた別ですよね。これは会社に縛られるっていう。

—— 会社と個人とのコンフリクト。

—— 私は、実は原子力全廃とは思っていないのですよ。減らしていけばいいと思っています。完全になくすのは問題があると思うので。

—— マイルストーンが難しいですよね。マイルストーンがない論議を、今やっていますけどね。

—— 完全になくすというのは、ないと思いますよ。

—— 皆知っててああいうことをやるから。政治っていうのは。

—— 分かりやすいから。

—— そうなのですよ。

—— ここは、ある、ない、分からない、定義で分けたらいいんじゃないですか。

—— 上が定義ですか？

(サブ F) で、この下が、「ある」ですね。上の部分をもうちょっと何か。

—— これは明確でいいですね。「ある」と言っているから。

「ない」というのは難しい。「ない」というのはないですね。

(サブ F) 「何なのか？」がこの辺ですよ。

— そう。「定義」みたいな感じがしますよね。「定義？」(書きこんだ)。

(F) この辺りは言ってもいいかなっていう気もしますが。

— やはりそうですよね。

(F) 実はミソだと。

— 私もそう思います。

— ああ、この辺ですか。

(サブ F) 大事なところは囲っておいたほうがいいですね。

— 「外との交流を地道にやる」。

— ああ、それはこちら、右上ですね。

いい加減に(分類)してしまいましたが、皆さん、よろしいですか？

(F) 皆さん、あと何か書き加えたいことはありますか？

(総合 F) あと 15 分になりました。サブファシリテーターさん、聞こえていますか？ あと 15 分です。

(F) あと 15 分もあるんですか。

(サブ F) 発表がありますから、発表のことを考えて、流れを考えたほうが良いと思います。

— 発表するのは？

(F) じゃんけんで。

—— いいですね。そういう偶然性はいいよね。

—— [理解できないことは任せるしかない]。

—— これはその他雑多な意見ですね。

(F) 特に困ってないのは、まあ、時間があれば見ておいてってことで。

—— まあ、これはいいかな (付箋を剥がした)。

(サブ F) 出た意見なんだから、貼っておいたほうがいいですよ。質じゃなくて、数だということですから。

—— ああ、これでいいんじゃないですか。

(サブ F) で、発表はどんなふうにしますか？

—— あみだくじかな。

(F) あみだくじですか。

—— 公平ですから。

(あみだくじで発表者を決定)

—— おめでとうございます。すごいな、言いだしっぺが当たるとは。

—— 墓穴を掘ったなあ。

—— 優先順位を決めるんですよね？

(サブ F) そうです。どうですか？

—— 定義のところはまずは触れないといけないですね。

(F) そうですね。

—— ここ（あるのか、ないのか、何なのか？）からですよね？

(F) ここからっていうのは違うんじゃないかという気がしますけど。

—— 左（あるのか、ないのか、何なのか？）はさらっと触れればいいんじゃないですか。

(F) ええ、さらっと。で、「どうしたらよいか？」がやはり。どこを言いたいですか？時間をかけて言いたいところ。

—— 私は、そうですね…。ここじゃないですか？ 今、線を引いてくれたところ。

(サブ F) これと「どうしたらよいか？」というのを、どういうつながりで話をするか。

—— それは、こういうことの限界を、皆で頑張ろうねって言うしかないですね。

(サブ F) でも、まだ時間がありますから、その限界に対して、アイデアみたいなものがありましたら。

—— 例えば、内部告発がいいですか？ でも内部告発は、公益通報者保護法で、ほとんど意味がないわけです。

そうすると、コンプライアンスでしょうか？ コンプライアンスとはちょっと違いますねと。

そうすると、日本の経営者は、本当に優秀なのか？ 会社にずっといて。

(F) すそ野を広げるというのはいいですね。

—— すそ野を広げる。いろいろなところで技術を使えるんですよと言ったらいいのかな？ 使えるんですよね？

—— 原子力の技術ですか。使えると思います。原子力と一言で言っても、機械もあるし、電気もあるし、いろいろあるので。

(F) それこそ、ロボットだってありますよね。

—— まあ、本当に原子炉の炉心とかの技術は、ちょっとあれかもしれないですけど。

—— まあ、皆がイメージするのは別としてね。運転技術にしろ。

—— はい。それだったら、たぶん、別に原子力に特化せずに、いろいろな技術はあるので。火力で使っている技術も導入できる。

(F) そうしたら、ムラの範囲も広がるんじゃないですか？

—— ああ、そうですね。

(サブ F) ムラじゃなくなるかも。マチになったり。それを言ったほうがいいですよ。

(F) ムラがマチになって。

(サブ F) ええ、書いたほうがいいと思います。「ムラを広げる」ということを。

(F) クニになるかもしれない。

—— それは面白いですね。

—— あとはあれですよ。私は、船橋洋一さんの影響を受けていて、結局、意思決定の問題だと思うんです。国として大きなことを決めるときの意思決定が、専門家にお任せという状況になっていて、それで偏りが出ているところがあるので。

—— それは言えますね。

—— 確かに、意思決定のスピードは、原子力はすごく遅いんですよ。他の技術に比べると、すごくゆっくり。

—— 海外から見ても遅いんですよ。だから、はっきり言えば、再開には国民投票だと。こういうことをやればいいのですよね。

—— ドイツも実際やっていますからね。

(F) きっと、意思決定の遅さって、後ろめたいところがあると思うんです。今何か決めちゃうと、人が出てこないとか。

—— そう、結局皆無責任なのですよ。責任を取ってジャッジしようとしなさい。

—— たぶん、今やったら、絶対再稼働反対になって、割とこれからの自分たちとしては、結構死活問題なんですよ。

(サブ F) 先ほどのご発言は、自分の責任で決めたくないということですか？

—— はい。

—— これは日本の特質ですよ。

—— せめて代わり（のエネルギー）を用意してからやってほしいというのがあります。

(F) そうですね。反対したその先を考えないで反対している感じ。

—— まあ、仕方がないですよ。

—— これからどう生きるんですかって話で。正直、丸投げされるのはちょっときつい。

(サブ F) 「自分が責任を持ちたくない」ということでいいですか？

—— はい。というか、その下に「無責任」という言葉が入ると思います。

(F) それを一番強調したい感じじゃないですか？ 無責任を強調したくなかったなあ。

—— これはあると思いますね。すごく。

(サブ F) まだ時間がありますから、追加があったらどうぞ。

—— 私が一番思うのは、5回こういうことをやって、お互いの感覚の溝が埋まるということが非常に難しいということですね。

(サブ F) まあ、その結論は今日終わるときに話していただいて、今は、

—— いや、なぜかという、このところで、『あるのか、ないのか、何なのか？』とい

うのは、なぜこういう聞き方をしているのかが分からないのです。「我々が考える「原子カムラ」はこういうものだと思うんですけど、いかがですか？」だったら答えやすいんですけど。

(サブ F) だって、あるかないかも分からないじゃないですか。

—— そうすると、聞く人も分からないってということですかね？

(F) やはり、意図的な何かを感じるということですか？

—— その辺りが難しい。そうすると、「ある」という前提で皆動き始めちゃうから。

(サブ F) でも、参加した方の中には、「原子カムラ」なんて、今回初めて聞きましたという方もいらしたでしょう。

—— そんなのあったんですか、なんだ、あるんじゃないのって。

というのは、「ない」だったら、「どうしたらよいか？」にならないじゃないですか。「何なのか？」も答えにならない。「ある」ということが前提で、この答えを求めている。だから、ある意味、「あるんじゃないの？」という問いかけに近いものを感じる。

(サブ F) でも、皆さん、ほとんど「ある」っておっしゃっていますよね。

—— ええ、私も「ある」って書いたんですよ。まあ、定義は漠然としたままで、あるのかなと。

—— 細かく定義をしようとする「ない」んだけど、漠と「ある」。

—— あるでしょうね。皆仲間だから。「やあやあ」とか言って。

—— 1人1人を出して行って、この人はどっち、ってやると、分からなくなってしまうんだけど。

—— 一般産業とどう違うのかといわれると、また分からないですね。

—— そうですね。例えば、火力発電ムラはありますか？ とか。

—— そうですよ。

—— 強いて言えば、国とか行政の関わり方が大きいような気がする。だって、国が助成金を、テレビ作るのに出してくれないのに。まあ、工場の誘致くらいはあるかもしれないけど。それがでかくなったものだと考えればいいんだと。

—— なるほど。

(F) それを言ったら、農業も同じですよ。

—— 農業のほうが助成金はすごいですよ。

(サブ F) でも、「農業ムラ」とは言われなくて、なぜ「原子カムラ」と言われているんだろうかというところが、たぶん、今回のだと思いますね。

—— まあ、「農業ムラ」も「原子カムラ」の一部になっているんじゃないですか。お金をもらっているじゃないですか、結局は。

—— 「農業ムラ」というのは、JAがあるから、批判できなくなっているんじゃないでしょうかね。

(総合 F) あと 5 分です。準備が終わったグループは、ホワイトボードに模造紙を貼ってください。

—— 私は、これ（流動性）だと思います。やはり今後は。今、アメリカのオークリッジの人と付き合っているんだけど、研究所にいて、民間に出て、それでまた研究所に帰るんですよ。

—— 流動性がありますね。

—— ええ。流動性を持っている。あれはうらやましいですね。

(模造紙をホワイトボードに貼った)

—— あと、アメリカは、関わっている人が多いですよ。日本は東京電力がピラミッドの頂点だけど、向こうは軍が原子力を持っているから、規制側も軍の OB とかが行ってい

て。

(F) メーカーもすごいお金を持っているし。

—— 電力会社のほうが力を持っているのは、日本の特有な、

—— それで、税金じゃなくて、個人からもらおうとしているから。電力料金として。

—— ああ、なるほど。

—— 電力料金がなあ。うちは高いんですよ。戸建ては電力の効率が悪いですね。

(F) 悪いですよ。

—— マンションのほうがいいですね。

(総合 F) すみません、準備が一番早くできているので、発表は一番ということをお願いします。

—— 分かりました。

—— 原子力の、要はハードがあるじゃないですか。施設自体の改修って、かなり早いペースで回っているんですか？

—— どこがですか？

—— いや、炉心とか、全部含めて。

—— そのままですよ。

—— やはり 1 回作ったら、ずっとそのまま変わらない？

—— 中に入れられないから。だから、本当は、それを見れるような、放射能に強いカメラを發達させないといけない。スイスとカナダとフランスは、原子炉の中を見れるようなカメラを發明しようとしているんですよ。それに対して、日本は全然そういうのがないのですよ。

—— 裁判員制度ってあるじゃないですか。それと同じようなものが意思決定の中に取り込めないかなって。

(F) ああ、民間の人を入れるってことですね。

(総合 F) 皆さん、準備をどんどん進めていただいて、ありがとうございます。全体共有を始めたいと思いますが、準備が進んだ順ということで、B 班、C 班、A 班という順序で発表をしていただきます。

<終了>